

2023 年度 公益社団法人日本技術士会 中部本部 愛知県支部

第 8 回年次大会資料

日時： 2023 年 6 月 10 日（土） 13：30～

場所： ツドイコ 名駅東 カンファレンスセンター Room - C
及び Web 開催

報告事項：

第 1 号報告 2022 年度 事業報告、決算報告

第 2 号報告 2023 年度 事業計画案、予算案



中部本部 愛知県支部

目 次

第1号報告 2022年度 事業報告、決算報告	1
1.1 支部の活動内容	1
1.2 支部の会合	2
1.3 講演会等の開催実績	2
1.4 見学会の開催実績	3
1.5 総務広報委員会の活動内容	3
1.6 例会の詳細	3
1.7 防災委員会の活動内容	7
1.8 決算報告	8
1.9 支部会員データ	10
第2号報告 2023年度事業計画並びに収支予算	11
2.1 事業推進の方針	11
2.2 具体的施策	11
2.3 支部活動計画	11
2.4 予算案	13
関連資料	14
愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き	14
県支部にける組織体制	16
県支部委員会の所掌事項	17
県支部組織役員リスト	18
別冊資料	
愛知県支部社会貢献委員会 2022年度活動報告及び2023年度活動計画	

2022年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1.1. 支部の活動内容

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は残っていたものの、Webを用いた例会のやり方をほぼ習得できたため、例年通りの例会の回数で実施することができた。特に3年ぶりに実施した見学会では、名古屋大学の最先端研究施設を目の当たりにすることができ、大変有意義であった。

2022年度に開催した行事についての参加者のアンケートでは、いずれも高い評価を得ており、企画内容は良かったと判断している。Webの例会は遠方の方も参加しやすいという利点はあるかもしれないが、それだけでは盛り上がりや充実感に欠けるため、対面の例会を増やす必要も感じた。Webと対面の両者で実施するいわゆるハイブリッド方式が望ましいが、その準備や運用が容易ではなく、その習熟も課題の一つと位置付けて少しでも技量を向上させるような取り組みは必要と感じた。

2023年には愛知県で技術士全国大会が予定されており、それに向けた準備を進めた。会場となる名古屋国際会議場側担当者との調整して、具体的なレイアウトやスケジュールをほぼ確定した。開催行事は式典、記念講演、分科会、展示、交流会、専門会議、ツアーなど多岐に渡っているが、それぞれ方針を決めて具体化を進めた。2022年10月28日に奈良で行われた全国大会では、大交流会で愛知・中部大会のアピールを行った。

以下に、活動概要を示す。今年度もZoomを多用したが、一部の活動については対面式も併用した。

(1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

6月11日にWebと対面のハイブリッドで年次大会を開催した。

(2) 役員会及び委員会

- 1) 支部長を含む23名で構成された支部役員会を8回開催
- 2) 委員長を含む7名で構成された社会貢献委員会を2回開催
- 3) 委員長を含む7名で構成された総務広報委員会を1回開催
- 4) 委員長を含む14名で構成された防災委員会を4回開催

(3) 行事

- 1) 企画研修委員会による講演会、見学会、ふれあい技術士プラザ及び、業績発表会を開催
- 2) 社会貢献委員会による講演会及びワークショップを開催
- 3) 防災委員会（中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会共催）による講演会を1回開催

(4) その他

- 1) 社会貢献委員会食問題研究会では「食に関わる問題の研究及び自己研鑽」を11回実施
- 2) 同じく、社会貢献委員会企業活動研究会では「環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究」を11回実施。
- 3) 同じく、社会貢献委員会「わいがやフォーラム」では「地域・中小企業支援、技術者の技術テ

ーマについて月1回の頻度で議論し、12回実施。

- 4) 昨年度に受託した技術士業務紹介が2件あり、いずれも完了した。
- 5) 防災委員会では愛知県内の自治体を対象とした技術支援を1件実施。

1. 2. 支部の会合

区分	年次大会 (全体会合)	役員会	委員会	講演会 など	見学会	その他	計
回数	1	8	7	5	1	31	46

1. 3. 講演会等の開催実績

開催日	講演名	講演者所属	講演者 (敬称略)	参加人数
2022年6月 11日(土)	電気を発見した技術者 平賀 源内	作家	鳴海風	44
2022年7月 30日(土)	はじめてのジェンダー論 ～「男らしさ」の歴史から 考える	早稲田大学法学 学院教授	弓削尚子	49
2022年9月 17日(土)	食料安全保障の危機の本質 と打開策	東京大学大学院 教授	鈴木宣弘	52
	ポスト石油時代の日本のエ ネルギー・産業戦略	合同会社ポスト 石油戦略研究所 ／代表	大場紀章	
2022年11 月5日(土)	ポストコロナの社会と技術 者：世界が直面する三つの 危機と技術の二つの課題	技術士会員	花井健夫 松田則雄 犬丸晋 長谷川欽一 竹崎宏 新美由香史	22
2022年12 月10日(土)	激甚化する水災害の特徴と 備え	名古屋大学大学 院工学研究科 土 木工学専攻・教 授	戸田祐嗣	64
2023年1月 29日(日)	ふれあい技術士プラザ	技術士会員	(技術士)	12
2023年3月 26日(日)	公的機関専門家派遣事業で 社会貢献 ～ 中小製造業の 課題解決に向けた経営支援	技術士会員	可児正勝	62
	地域から始める本気の気候 政策 ～ 世界気候エネルギ ー首長誓約 ～	名古屋大学大学 院 環境学研究科 附属持続的共発 展教育研究セン ター 准教授	杉山範子	

1. 4. 見学会の開催実績

開催日	見学場所	見学会名称	参加人数
2022年11月8日(火)	名古屋大学ナショナル・イノベーション・コンプレックス	車両実証実験設備及び、低温プラズマ科学研究センター見学	16

1. 5. 総務広報委員会の活動内容

2022年度も引き続き、新型コロナ禍に伴う緊急事態宣言を受ける形で、オンライン会議(2/23)及びメール審議(各役員会前)にて、打合せ等を実施した。

2/23の会議では、年次大会についての会場選定と特別講演者の決定、及び懇親会の設定や23年度の会計担当者を決定した。

また、DPP委員からの要望を受け、6F会議室用にスピーカホンを購入、Web機器のさらなる充実を図った。(4月度より運用中。)

2023年11月17~20日開催予定の第49回技術士全国大会(愛知・中部)の準備を進めた。

今回は、別組織となる大会実行委員会を立ち上げ、それを中心に6/25、8/27、11/19、3/18に打合せを実施して準備を進めている。メイン会場は名古屋国際会議場2号館及び白鳥ホールとし、担当旅行会社はJTBに決定。テーマは、「地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍～新たな発見に向けて～」である。

進捗の状況は、後援等については34団体の内諾を得て案内状を送付済みであり、募集中の広告料は、4/12(水)時点でおおよそ120万円まで積み上がっている。分科会は、1)防災、2)青年、3)環境・エネルギー、4)ジェンダーの4分科会となり、加えて、専門部会、倫理連絡会の実施内容の概略が決まったので、大会PR用HPを展開準備中である。

現在、受付の対応が、クローズアップされており、JTBや各委員会担当者とは協議して詳細を詰めている。

1. 6. 例会の詳細

(1) 第1回例会「講演会」企画研修委員会

日時：2022年7月30日(土) 13:30~15:30

場所：Webによる開催

参加者：49名

講演者：早稲田大学 法学学術院の教授 弓削尚子氏

内容：最初にジェンダーの基本的な認識と概念についての説明があり、その後、「男らしさ」、「女らしさ」のそれぞれが社会的、人為的に作られたものであることを歴史的な背景から解説した。また、これらの意味するところは、普遍的でも不変的でもないという講演者の言葉で締めくくられ、個人個人の「その人らしさ」が重要であると解説した。

参加者数及びアンケート結果から、関心のある課題を提供できたのではないかと考えている。特にアンケートでは、今回で終わりではなく、発展的に展開ができればさらに有意義な講演会となるとの意見があった。

課題としては、参加者募集中に定員オーバーで申込受付を停止したが、オンラインかつ、無料で参加しやすいこともあって、登録者数76名に対し、参加者は49名(約65%)であり、当日のキャンセルが多かった。また、「PassMarket」からの参加申し込みを指定したが、「統括本部の行事」からの申し込みで2重登録が多数発生したことが、今後の課題として残った。

(2) 第2回例会 「講演会」 社会貢献委員会 (わいがやフォーラム WG)

日 時：2022年9月17日(土) 13:30~17:00

場 所：Web による開催

参加者：52名

テーマ：日本の食とエネルギーに関し、現状と将来の安全保障について考える

① 講演1 「食料安全保障の危機の本質と打開策」

講師：東京大学大学院 教授

鈴木宣弘先生

日本の食糧事情は脆弱で自給率が37%程度であり、世界情勢が変化すれば日本はたちまち食糧危機に追い込まれるそうである。日本はこれまで優れた食文化を築き上げてきたのに、自立していないから米国などの外圧に屈してしまっている。昔ながらの自然生育にして無理なく進めた方が結果的に生産性も高く、日本の農業も立ち直るということであった。

② 講演2 「ポスト石油時代の日本のエネルギー・産業戦略」

講師：合同会社ポスト石油戦略研究所/代表

大場紀章先生

脱炭素社会に向けて日本はポスト石油時代への産業転換の戦略が不可欠とのことである。パリ協定後はCO₂排出量削減の主体が企業となり、ESG投資の考え方も広まって利益に繋がるESG経営に取り組むことが重要であるとのことであった。そしてEV車の普及だけでなく、原発再稼働、アンモニア発電、ヒートポンプの有効活用も日本の脱炭素戦略に有効な選択肢であることにも言及された。

(3) 第3回例会 「ワークショップ」 社会貢献委員会 (企業活動研究会)

日 時：2022年11月5日(土) 13:15~17:00

場 所：Web による開催

参加者：22名

テーマ	内 容	発 表 者 他
主催者挨拶、本日の予定と進め方	総合司会進行	犬丸晋技術士(金属部門)
挨拶と開催主旨	ポストコロナを考える三つの危機と二つの課題	野々部顕治(愛知県支部長)
第一部	地球環境をめぐる三つの危機	司会とまとめ 犬丸晋
COP26にみる地球温暖化の現状と今後	COP26で示された環境問題の世界と我が国の現状と課題	花井 健夫 技術士(化学、総合技術監理)
欧州・中国のエネルギー危機と我が国の現状	欧州と中国のエネルギー事情と2021年のエネルギー危機から見えてくる教訓と日本の方向	長谷川欽一 技術士(経営工学部門)
ソ連邦崩壊後の軍事思想と軍事技術の動向	ウクライナ、南沙諸島にみられる中国、ロシアの軍事戦略と軍事技術の動向と我が国への教訓	松田則雄 技術士(衛生工学部門)
第一部発表への質疑応答と議論のまとめ	環境、エネルギー、安全保障の三次元連立方程式の最適解を求めて	犬丸晋 技術士(金属部門)
第二部	コロナが加速した社会のDX化に伴う企業、技術者の課題	司会とまとめ犬丸晋
通信環境の進化を背景としたDX社会の動向と企業の直面する課題	通信環境の進化を背景とした社会のDX化に伴う企業の課題、業務改革、サイバーリスク、人材育成を考える	竹崎宏 技術士(化学部門)

ポストコロナを見据えた、DX・メタバース時代の技術者の課題	コロナが後押しした DX の流れと働き方改革が迫る技術者の自己変革とリスキルへの挑戦	新美由香史 技術士(経営工学部門)
第二部発表への質疑応答と議論のまとめ	社会全体としてのデジタル改革と企業、技術者の課題の明確化	犬丸晋 技術士(金属部門)
主催者まとめ、連絡等	まとめと社会貢献委員会について 挨拶：社会貢献委員会委員長	野々部顕治(愛知県支部長・ 社会貢献委員会委員長)

(4) 2022 年度 第 4 回例会「見学会」企画研修委員会

日 時：2022 年 11 月 8 日(火) 13：30～16：45

場 所：名古屋大学ナショナル・イノベーション・コンプレックス

参加者：16 名

内 容：名古屋大学ナショナル・イノベーション・コンプレックスにある二つの施設の見学を行った。一つは、「車両実証実験設備」で、ここでは実際に「没入型ドライビングシュミレーター」の試乗も行った。もう一つは、「低温プラズマ科学研究センター」の実験装置で、これらの二つの施設について理解を深めるため、見学と共にそれぞれの施設の研究者から講義をしていただいた。モビリティ社会研究所の青木特任教授からは、「高齢ドライバー人間・運転特性データベース『DAHLIA』(ダリア) (Data Repository for Human Life-Driving Anatomy) を用いた運転支援開発」と題して、高齢ドライバーに関するデータベースの構築とその利用についての解説があった。

一方、低温プラズマ科学研究センターでは、初めに堀教授(同研究所センター長)から「新たな価値の創造と普及」と題して、低温プラズマの定義や歴史と共に、2000年に「手で触れる(室温)プラズマ」ができたことにより、色々な産業や医療、農業の分野にまでの応用が進められるようになったことなどの説明を受けた。その後、「高密度大気圧プラズマ源」、「高密度ラジカルソース」、「プラズマビーム装置」などの実験・計測装置を見学したが、施設内はコミュニケーションを図るため、一部を除き装置には仕切りや壁がなく、研究者が自由に他の研究の装置へ移動できるようになっていることが印象的であった。

アンケート結果では参加者の満足度が非常に高かったが、平日開催ということもあり、参加者は16名であった。

(5) 2022 年度 第 6 回例会(企画研修委員会開催)「ふれあい技術士プラザ」

日 時：2023 年 1 月 28 日(土)13:30～16:30

参加者：12 名(愛知県支部が 11 名、静岡県 1 名)

目 的：技術士ネットワークを使つての各人の活動・ビジネス構想の発展。講演会等への出席の少ない会員や未会員の出席による活動の活性化

結 果：最初は 2 グループで議論したが、参加人数が少なく内容が同一化してきたため、最終的には 1 つのグループにして議論を行った。アンケートの評価は、グループディスカッション及び、運営ともに良い評価が得られたので参加者は満足した例会であった。

課題としては、毎回、ほぼ同じ顔ぶれの参加者になり、新しい「ふれあい」が見いだせないこともあって、年々、この企画の参加者が減少し、今回は予定のグループ数分けをする人数には至らなかった。参加者を増やすという昨年の課題を解消できなかったのは、準備を含めた企画が不足していたためと認識し

ている。特にテーマの選定では、抽象的な課題での議論は難しいので、日頃、技術士として感じている疑問や、技術士としてのビジネスの見つけ方など、魅力あるテーマの選定が必要である。

(6) 2022年度 第7回例会（企画研修委員会開催）業績発表会

日 時：2023年3月26日（日）13：30～16：40

場 所：Webによる開催

参加者：62名

目 的：技術士及び大学の研究者から、それぞれの立場での業績を発表することを目的として企画した。

<講演1>

演 題：公的機関専門家派遣事業で社会貢献～中小製造業の課題解決に向けた経営支援～

講演者：可児正勝氏；技術士(機械部門)、中小企業診断士（ガッツコンサルタント代表）

主 旨：中小製造業の経営支援実績として、技術士のコンサルタント業務開拓の参考となる業務事例について、技術士の立場から報告があった。また、中小企業庁の専門家派遣事業「中小企業119」や中小機構など、各種専門家派遣事業で実際に支援依頼が来た案件を中心に、技術士として活躍した事例を報告するとともに、本専門家派遣事業の波及効果と新たな仕事獲得の機会についても報告された。

<講演2>

演 題：地域から始める本気の気候政策～世界気候エネルギー首長誓約～

講演者：杉山範子氏(名古屋大学大学院 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター 准教授)

主 旨：異常気象に関しては、ほとんど毎日、メディアなどに取り上げられているが、実際の取組はあまり進んでいない。人々はそのことに関心はあるが、自ら活動を起こすまでになっていないなかで、気候危機の時代、脱温暖化社会への取組みについて解説した。その中で、2つのキーワード「緩和」と「対応」があった。この2つの単語は、我々がこれから行っていく重要な考え方の基本となるもので、「緩和」策は国や企業などの基本方針であるが、「対応」はむしろ、我々の日々の生活で実施できる対応策であることを解説した。「世界気候エネルギー首長誓約」は、首長のリーダーシップで、気候政策に本気で取組む12,500以上の自治体が参加する世界最大のネットワークであること及び、その国内外の自治体の取組みについて、自らが気象の研究を行いながらネットワークの事務局長として活動しているとの報告があった。

総 括：参加者は62名であり、参加者数から、この例会への関心の高さが伺える。また、中部本部及びその他の地域から参加した技術士が全体の約半数あり、全国的な展開となった。しかし、一方では、愛知県支部の参加者は32名であり、支部会員の、より多くの参加が望まれる。

1. 7. 防災委員会の活動内容

防災委員会では、技術士としての災害時支援活動に関する検討や、講演会による会員の防災スキルの向上を図るための取り組みなどを進めている。2022年度は、防災委員会を4回開催し、以下に示す具体的な活動を実施した。

(1) 町村災害支援活動（技術講習会）

技術士としての災害時支援活動に関する検討の一つとして、愛知県内町村における職員の技術スキル向上と平時からのつながりを維持するため、技術講習会を実施している。2022年度は、武豊町と南知多町の建設関連職員を対象に、以下の講習会を実施した。

1) 第1回技術講習会

(テーマ) 舗装メンテナンス講習会

(講師) 愛知県支部防災委員会 平野副委員長、後藤委員

(日時) 7/19 (火) 13:30～15:30

(場所) 武豊町役場 会議室

(参加者) 11名 (武豊町7名、南知多町4名)

2) 第2回技術講習会

(テーマ) コンクリートに関する講習会

(講師) 愛知県支部防災委員会 平野副委員長、平澤委員、後藤委員

(日時) 11/8 (火) 9:45～12:00

(場所) 武豊町役場 会議室

(参加者) 11名 (武豊町7名、南知多町4名)

(2) 講演会

中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会と共催により、防災に関連する講演会を開催した。2022年度は1回のみで開催となり、コロナ感染防止の観点からZoom使用によるオンライン開催とした。講演会の内容は以下のとおりである。

(講師) 名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻 (水工学講座) 戸田祐輔教授

(テーマ) 「激甚化する水災害の特徴と備え」

(日時) 12/10 (土) 13:30～15:30

(場所) ZoomによるWeb開催

(参加者) 64名

(3) 士業連携の検討

災害時における士業連携に向けた取り組みを検討するため、愛知県弁護士会との情報交換を目的とした協議を実施した。

(日時) 8/29 (月) 14:30～15:20

(参加者) 愛知県弁護士会災害対策委員会 上松氏、愛知県支部防災委員会 平澤委員、中野委員

1. 8. 決算報告

収支計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[750,000]	[134,082]	[615,918]
自主事業収入	(750,000)	(134,082)	(615,918)
参加費収入	550,000	125,000	425,000
外部依頼管理収入	200,000	9,082	190,918
地域組織収入	[780,000]	[780,000]	[0]
地域組織活動費収入	780,000	780,000	0
雑収入	[10,000]	[0]	[10,000]
雑収入	10,000	0	10,000
事業活動収入計	1,540,000	914,082	625,918
2. 事業活動支出			
事業費支出	[1,535,000]	[439,132]	[1,095,868]
事業広報費	(155,000)	(0)	(155,000)
会誌郵送費	5,000	0	5,000
インターネット運用費	10,000	0	10,000
その他の広報活動費	140,000	0	140,000
研鑽費	(800,000)	(267,412)	(532,588)
講演会・見学会開催費	800,000	267,412	532,588
業務推進費	(580,000)	(171,720)	(408,280)
賃金	100,000	60,000	40,000
会議費	100,000	85,502	14,498
旅費交通費	250,000	370	249,630
通信運搬費	10,000	0	10,000
消耗品費	10,000	15,983	△ 5,983
印刷製本費	50,000	3,718	46,282
各種会合費	50,000	0	50,000
雑費その他	10,000	6,147	3,853
事業活動支出計	1,535,000	439,132	1,095,868
事業活動収支差額	5,000	474,950	△ 469,950
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0	—	0

科 目	予算額	決算額	差 異
当期収支差額	5,000	474,950	△ 469,950
前期繰越収支差額	2,637,000	3,291,379	△ 654,379
次期繰越収支差額	2,642,000	3,766,329	△ 1,124,329

貸借対照表

2023年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,766,329	3,291,379	474,950
現金	198,389	212,521	△ 14,132
普通預金	3,567,940	3,078,858	489,082
流動資産合計	3,766,329	3,291,379	474,950
資産合計	3,766,329	3,291,379	474,950
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	3,766,329	3,291,379	474,950
正味財産合計	3,766,329	3,291,379	474,950
負債及び正味財産合計	3,766,329	3,291,379	474,950

財産目録

2023年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	198,389
預金	普通預金 愛知/ゆうちょ銀行		3,567,940
流動資産合計			3,766,329
資産合計			3,766,329
正味財産			3,766,329

1. 9. 支部会員データ

会員数

(1) 各県下の個人会員数（中部本部傘下の会員数）

県名	日本技術士会会員 (2023年3月31日現在)		
	正会員	準会員	合計
愛知県	804	182	986
岐阜県	172	45	217
三重県	94	35	129
静岡県	296	72	341
中部計	1,339	334	1,673

(2) 全国の個人会員数(2023年3月31日現在)

会員 16,081 名、準会員 3,064 名、合計 19,145 名

部門別正会員・準会員数(2023年3月31日現在)

部門 正・準別	愛知県支部			全 国		
	正会員	準会員	合計	正会員	準会員	合計
機械	149	59	208	1,746	572	2,318
船舶・海洋	0	0	0	22	8	30
航空・宇宙	13	8	21	74	46	120
電気電子	85	25	110	1,228	452	2,280
化学	21	13	34	434	202	636
繊維	5	0	5	91	13	104
金属	24	6	30	366	73	439
資源工学	1	0	1	52	11	63
建設	342	49	391	6,917	1,034	7,951
上下水道	54	11	65	1,080	252	1,332
衛生工学	39	10	49	592	128	670
農業	33	1	34	860	156	1016
森林	9	2	11	324	56	380
水産	2	4	6	200	43	243
経営工学	26	6	32	522	148	670
情報工学	28	19	47	747	382	1,129
応用理学	32	9	41	855	139	994
生物工学	7	3	10	201	136	337
環境	30	26	56	514	148	962
原子力・放射線	1	1	2	218	36	254
総合技術監理	188	3	191	4,334	75	4,409
部門別計	1,089	256	1,345	21,927	4,409	26,336
会員数計	804	182	986	16,081	3,064	19,145

2023年度 事業計画

2. 1. 事業推進の方針

ようやく新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いて、以前とほぼ同じような活動ができるようになりました。まずは人脈ネットワーク拡大による組織の活性化に全力を傾けます。組織を元気にすることは波及効果が大きく、他の課題の解消に向けたエネルギーを生み出すこととなります。そして技術士の資質向上を見据えて、質の高い例会、WGなどを通じた継続研鑽の充実を図ります。

2023年には愛知での全国大会が控えていますが、それを成功に導くことを明確に視野に入れ、支部会員らの力を結集して上記の課題解決に注力します。

2. 2. 具体的施策

次の3項目の具体策を実行します。

- 1) 技術士全国大会（愛知・中部）を大成功に導く
 - ・大会テーマを十分に意識して、各企画の内容をより優れたものにする。
 - ・実施する予定の全ての企画に対して、段取りや進行を確実に行う。
 - ・全国からおいでいただく技術士の皆様に満足していただけるようなおもてなしをする。
- 2) 人脈ネットワーク拡大による組織の活性化
 - ・全国大会などを通じて全国の技術士らと交流を深め、人脈ネットワークを拡大する。
 - ・新合格者、企業内技術者や大学生に対して、技術士会の魅力をアピールする。
 - ・例会などの参加者数の向上と、会の運営に携わる人材を育成する。
- 3) 質の高い継続研鑽による資質向上
 - ・全国大会の実行委員などを経験することにより、役員一人一人が会の運営実務の力量を向上させる。
 - ・より質の高い例会やWGを通じ、多くの気づきや学びが得られるようにする。
 - ・Webを活用した新しい例会運営を確実に実施できるようにし、時代の流れを視野に入れた斬新な手法にチャレンジし、会員の満足度を向上させる。

2. 3. 支部活動計画

1) 例会（講演会）開催

2023年度は次のとおり。

- ・ 6月10日（土） 年次大会：特別講演会

- ・ 1～2月 第1回例会「見学会」または「ふ 企画研修委員会
れあい技術士プラザ」
- ・ 3月 第2回例会「業績発表会」 企画研修委員会

2) 役員会の開催

下記のとおりとする。（Teamsと対面のハイブリッドを基本とする。）

4月22日（土）午前、5月14日（日）午前、6月4日（日）午前、9月17日（土）午前、

1月27日（土）午前、3月24日（日）午前

3) 支部委員会活動

3-1) 総務広報委員会

- ・例会等の運営
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策
- ・県内一部地域における会員活動への支援
特に本年度は Web を主体とした例会とし、いつでもどこからでも参加しやすい環境とすることで、例会への参加者の増加を推進する。また、Web のみの開催行事では参加費は無料とし、気軽に参加しやすい環境と行事の費用処理の簡便化を図る。
- ・別紙掲載の役割職掌に基づく今年度の活動の進行

3-2) 企画研修委員会

- ・例会等による会員の自己研鑽の促進。ただし、本年度は全国大会の準備を集中して行うため、例会の回数を制限。
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策
- ・県内一部地域における会員活動への支援

3-3) 社会貢献委員会

- ・技術士全国大会（愛知・中部）への全面的な協力
- ・愛知県支部の会員による活動グループ（研究会）の運営
- ・他の社会貢献活動の強化

3-4) 防災委員会

- ・講演会の企画・運営（中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会との共催）
- ・災害時支援活動の一環である愛知県内自治体職員を対象とした技術講習会の開催
- ・愛知県支部における災害時支援活動計画（SAPD）策定に向けた検討
- ・愛知県弁護士会をはじめとする士業連携に関する検討

4) 支部会員数の拡大

- ・県内の企業内技術者や大学生に対して、技術士の魅力をアピール。
- ・講演会やネットを通じて技術士会に参加することの意義とメリットを発信。

2. 4. 2023 年度 予算案

公益社団法人日本技術士会 中部本部愛知県支部 2023 年度予算案
(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	2023 年度 (予算案)	2022 年度 (決算)	2022 年度 (予算)
I 事業活動収支			
1 事業活動収入			
(1) 事業収入(参加費収入)	750,000	134,082	750,000
(2) 雑収入(賛助会員年会費など)	10,000	0	10,000
(3) 地域組織活動費収入	850,000	780,000	780,000
(4) 地域組織活動補助費収入(講演会・見学会補助費)	0	0	0
事業活動収入計 (A)	1,610,000	914,082	1,540,000
2 事業活動支出			
(1) 事業費	1,605,000	439,132	1,535,000
① 事業広告費(インターネット運用費など)	155,000	0	155,000
② 普及啓発費(合同セミナー開催費など)	0	0	0
③ 研鑽費(講演会、見学会開催費など)	800,000	267,412	800,000
④ 事業促進費(対外活動促進費)	0	0	0
⑤ 業務推進費(会議費,旅費交通費,印刷製本代など)	650,000	171,720	580,000
(2) 管理費	0	0	0
事業活動支出計 (B)	1,605,000	439,132	1,535,000
当期収支差額(事業活動収支差額) (A) - (B)	5,000	474,950	5,000

※ 2-(1)-①：インターネット運用費(10,000)、その他の広報活動費(145,000)

※ 2-(1)-②：合同セミナー開催無

愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き

2016. 3. 18 愛知県支部役員会制定

2017. 6. 11 愛知県支部役員会制定

2021. 6. 6 愛知県支部役員会制定

(目的)

第1条 この手引きは、「地域組織の設置運営に関する規則第16条」(個別規則の制定)第1項第4号及び「地域組織運営における個別事項を定めるモデル手引に関する規則」に基づき、愛知県支部(以下、「当支部」という。)の運営について個別の事項について定める。

第1章 基本運営

(役員会の開催)

第2条 役員会は、毎年6回以上の開催を基本とする。

(副支部長および幹事の定数)

第3条 副支部長の定数を5名以内とする。

2 幹事の定員を30名以内とする。

(運営組織)

第4条 別記表1に掲げる委員会等を設置し、当支部の運営に当たる。

(委員会)

第5条 委員会は、別記表2に掲げる事項を所掌する。

2 委員会委員の定数は、委員補佐を除き30名以内とする。

(交通費支給範囲)

第6条 当支部は以下の場合、対応した会員の交通費について実費相当額を支給することとする。

- (1) 当支部の代表として出席する外部団体の会議等
- (2) 地域組織委員会が主催する行事運営要員としての行事の参加
- (3) その他、特別な理由により支部長が承認した場合。

第2章 協賛団体

(協賛金)

第7条 協賛団体からの協賛金は、1口20,000円(年間)とする。

(協賛団体の扱い)

第8条 協賛団体の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 協賛団体の代表又はその代理者は、当支部年次大会に出席し意見を述べるができる。
- (2) 協賛団体は、当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了解を得て利用することができる。
- (3) 協賛団体の構成員は、当支部が主催する会合、講演会等(懇親会は除く)に参加する場合、

参加費については、協賛金 1 口当り 10 名まで無料で参加することができる。

第 3 章 事務局

(所在地)

第 9 条 事務局事務所は、名古屋市に置く。

(体制)

第 10 条 事務局体制は、次のとおりとする。

- (1) 事務局長 (正会員 1 名)
- (2) 事務局次長 (当面置かない)
- (3) 事務局職員 (当面置かない)

(報酬)

第 11 条 事務局を務める以下の者には、実費相当の交通費の他、報酬については役員会で定めた報酬を支払うことができる。

- (1) 事務局長 常勤でない場合、原則無償とする。
 - (2) 事務局職員を置いた場合、本部長が決定した金額の報酬を支払う。
- 2 前項の規定に基づく報酬支払いに当たっては、支部長と本人又は派遣元との間において、報酬、勤務条件等を定めた覚書又は契約書を締結し、役員会に付議しなければならない。

第 4 章 依頼業務

(依頼業務)

第 12 条 当該地域における自治体又は企業等から技術士業務に関わる依頼があった場合の詳細については、別に定める「中部本部外部依頼対応要領」による。

第 5 章 その他

(事務所会議室利用)

第 13 条 事務所会議室の利用については、当支部長の下承を得なければならない。

(本手引きの改廃)

第 14 条 本手引きの改廃については、「地域組織の設置運営に関する規則」第 16 条の規定による。

(オンラインによる会議または例会の実施方法)

第 15 条 オンラインによる会議または例会の実施については、別に定める「Zoom アカウント使用の暫定ルール」による。

附則 (平成 28 年 3 月 18 日)

この手引きは、平成 28 年 3 月 13 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 28 年 3 月 18 日から施行する。

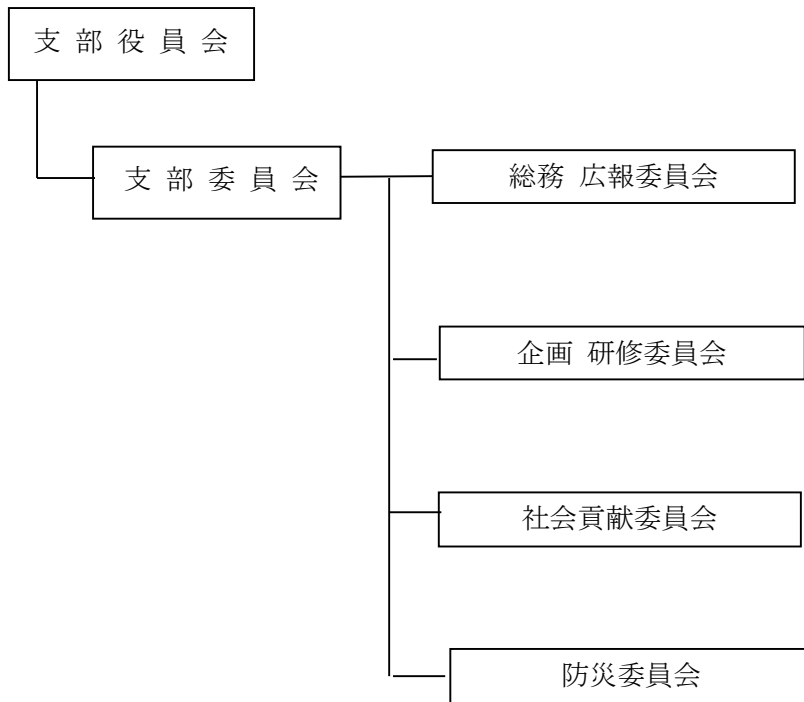
附則 (平成 29 年 6 月 11 日)

この手引きは、平成 28 年 11 月 20 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 29 年 6 月 11 日から施行する。

附則 (令和 3 年 6 月 6 日)

この手引きは、令和 3 年 6 月 5 日中部本部役員会の審議を経て、令和 3 年 6 月 6 日から施行する。

【別記表1】 県支部における組織体制



【別記表2】県支部委員会の所掌事項

県支部委員会	主要な業務
総務広報委員会	<p>(総務、会規、広報、情報交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会の秩序・信用の維持、運営管理及び会員の顕彰に関する事項 ・ 県支部会報の企画、編集、発行 ・ 技術士及び本会外部に向けた広報 ・ ホームページの活用に関わる企画、立案及び維持管理 ・ Web を活用した会議や例会のアカウント管理や運営に関すること
企画研修委員会	<p>(企画、CPD 研修、見学、講演会、研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本委員会の事業実施についての全般的企画及び財務の管理に関する事項 ・ 技術士の研修及び技術系人材の育成に関する企画、実施に関する事項 ・ 技術士 CPD 推進のための研鑽、講演会等諸行事の調査・企画・運営。 ・ 技術士 CPD の啓発。
社会貢献委員会	<p>(活用促進・業務紹介・WG・開業支援)</p> <p>主に技術士会以外の組織や一般の方々に対し、技術情報の発信、指導、教育、相談などを通じて貢献し、地域経済や産業の発展に寄与する。</p> <p>主要な業務は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活用促進：技術士業務の活用促進支援。業務の受諾、紹介。 ・ 理科支援：主に小中学生に対し、科学技術に対する夢を膨らませるような理科特別授業の実施。 ・ 食問題研究：食文化と食の安全、生産技術や HACCP 等の品質管理規格など食に係る問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。 ・ 企業活動研究：環境・品質・安全と ISO 国際規格など企業活動に関する諸問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。 ・ わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマ
防災委員会	<p>(防災・減災支援活動、発災時の中部本部との連携、防災支援員に関する事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・減災支援対応：愛知県や県内自治体、中部本部との連携、県内市町村などの要請があれば支援活動の実施、自治体との支援協定の締結など ・ 防災教室・防災セミナーの開催 ・ 防災専門家養成：防災支援員の研修、会員の防災に関するスキル向上 ・ 防災・減災・復興（BCP含む）に関する諸問題の研究および自己研鑽、並びに外部への発信

県支部組織役員リスト

支部役員会	
支部長	野々部顕治（社会貢献委員長）
副支部長	上田直和（全般）
同 上	池田実（総務広報委員長）
同 上	竹下敏保（企画研修委員長）
同 上	庄村昌明（防災委員長）
事務局	総務広報委員会
会計幹事	高桑俊也
幹 事	（池田実、他 23 名）

※愛知県支部幹事の氏名には、
下表でアンダーラインを示す

総務広報委員会 （総務・会規／広報・情報交流）
委員長： <u>池田実</u> 副支部長 総務広報委員： <u>山口正隆</u> 、 <u>麻田祐一</u> 、 <u>西本テツオ</u> <u>高桑俊也</u> 、 <u>河村裕司</u> ※
企画研修委員会 （企画／ CPD 研修、見学、講演会、研修）
委員長： <u>竹下敏保</u> 副支部長 企画研修委員： <u>今津英一郎</u> 、 <u>山田豊久</u> 、 <u>跡部昌彦</u> 、 <u>可児正勝</u> 、 <u>泉川大輔</u> 、 <u>城地貴裕</u> 、 <u>中村朋裕</u>
社会貢献委員会 （活用促進・理科支援・企業支援・食問題・わいがや）
委員長： <u>野々部顕治</u> 支部長(活用促進、理科支援) 社会貢献委員： <u>長谷川欽一</u> <u>新美 由香史</u> ※、 <u>松田則雄</u> （企業支援）、 <u>稲垣拡之</u> ※、 <u>森永泰彦</u> （わいがや WG）
防災委員会
委員長： <u>庄村昌明</u> 副支部長 防災委員： <u>平澤征夫</u> 、 <u>中野錦也</u> 、 <u>後藤徳善</u> 、 <u>山口正隆</u> 、 <u>池田 実</u> 、 <u>小川幸久</u> <u>古川覚一</u> ※、 <u>打田憲生</u> 、 <u>鈴木孝典</u> 、 <u>平野正浩</u> 、

※新任

愛知県支部社会貢献委員会
2022年度活動報告及び2023年度活動計画

- 1 食問題研究会
- 2 企業活動研究会
- 3 わいがやWG
- 4 理科支援担当
- 5 活用促進担当

2022年度 食問題研究会の活動状況報告

2023年4月20日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

1. 2022年度のWGの主な活動状況

一昨年度より新型コロナウイルス蔓延状況を鑑み、当年4月から事前計画に沿い、WEB通信ソフトウェア zoom によるリモート会議に切りかえ、70回から81回の会議を開催した。当研究会は発足当時、食品品質ならびに環境規格の日本導入の流れを受け、HACCPを中核テーマに据えた勉強会として出発した。現在では、食品原材料調達、生産課題ならびに消費者に至るサプライチェーンを意識した幅広いテーマを設定している。

2022年度は、技術士以外の一般参加者を含む毎回5~9人の参加者をもって、世相で話題になった社会的および技術的動向について議論をした。また上記に加え、東海地方の伝統食文化、食品業際の環境問題と関連する容器包装プラスチック生産技術や新型コロナの話題も適宜取り上げた。

2. 2021年度の当初計画

1) テレビ会議システムの立ち上げと試行

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

4) その他

食品業際問題は、不定期であったが会員各位から情報提供があった。

3. 活動実績

1) テレビ会議システムによる活動の継続

新型コロナの感染状況から対面での会議は実現できず、Zoomによるテレビ会議での運営となった。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化（伝統文化含む）、食の生産・流通・消費を念頭下サプライチェーン課題、食の品質と安全に関する情報収集と関連討議は計画通り進捗した。主に検討した話題は、前年度に引き続き、ゲノム編集関連技術とその食品産業への応用、機能性食品等食品の表示、食中毒の関連情報、食品添加物の安全性、食品ロスと廃棄物、食品容器・包装と環境問題、食品関連法規制等の多岐にわたった。当年は、委員で話題に上った新型コロナウイルス関連や感染動向も討議話題とした。

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

当研究会以外の技術士会会員ならびに一般向け情報発信の取り組みは、検討を重ねるもいまだ有効に機能できておらず、2023年度の課題とする。また、ロシアによるウクライナ侵攻と新型コロナによるパンデミックによるサプライチェーンの寸断の影響が、我が国の生産システムに影響する中、我が国の食問題関連産業にも大きな影響をもたらしたが、それに対する分析や提言活動や情報発信業務は、不十分なままに終わった。今後の課題としたい。

4) その他

見学会・試飲会の開催などの企画は、コロナ蔓延状況を鑑み、上程していない。

4. 予算と実績

前年度同様、Zoomでの対応が中心であり、活動費は、発生していない。

(代表 日比幸人：作成総括文責 会計 本堀雷太委員)

以上

2023 年度 食問題研究会活動計画(案)

2023 年 4 月 20 日

中部本部愛知県支部社会貢献委員会食問題研究会

1. 今期の基本方針

食問題研究会(旧 HACCPWG)の設立趣旨を念頭に、2023 年度はズームを利活用したりリモート会議で活動を続ける予定である。前年度までに開催した研究会(合計 81 回)の内容を整理総括し、当会未加入の技術士会会員を含む一般各位に情報提供機会を探る。また新型コロナの 5 類への変更を念頭に研究会委員が対面し、議論を重ねる機会も検討する方針である。科学技術と社会の在り方が、新型コロナ蔓延を契機に変化した。今後、生活の基本となる食の問題は、どのような変化の波に直面するのか、コロナショックがもたらした食への影響も含め、幅広い観点から、食問題を考えてゆく。食の問題は、エネルギー問題と同じく、国の根幹を支えるテーマの一つであり、以下の分野を含む。

- ① 生産・流通・農水産・環境問題・・・GAP・遺伝子組み換え
- ② 加工・保存・・・食品生産・保存・保冷・包装・・・HACCP
- ③ 調理・摂取・・・栄養学・食文化
- ④ 消化・吸収・排泄
- ⑤ 食のリサイクル・・・食の流通・環境問題

2. 今年度の主な活動内容

1) テレビ会議システムの維持と発展

テレビ会議システムを継続し、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化(食の伝統文化を含む)、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 13:30~15:00(zoom 会議又は花車ビル北館 B2 会議室)会議の時間帯を午後に変更。Zoom の設定を 13:30~17:00 まで、企業活動研究会との一括設定とした

2) 定例会議スケジュール 当面 zoom によるリモート会議

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
定例	82 回 277 回	83 回 278 回	84 回 279 回	85 280 回	休み	86 回 281	87 回 282 回	88 回 283	89 回 284 回	90 回 285 回	91 回 286 回	92 回 287 回
開催日 (曜日)	8 日 (土)	13 日 (土)	3 日 (土)	8 日 (土)	休み	9 日 (土)	14 日 (土)	11 日 (土)	9 日 (土)	13 日 (土)	10 日 (土)	9 日 (土)
司会 議事録	長谷川/長谷川	犬丸 長谷川	前田 長谷川	長谷川/長谷川	休み	松田 花井	花井 松田	長谷川/長谷川	犬丸 長谷川	松田 長谷川	花井 長谷川	前田 長谷川

長谷川(代表)・本堀(会計)

4. 概略予算.(単位:円) 会計担当(長谷川・本堀委員)

WS 支部からの補助	50,000	月例会:会議室使用料、10 ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

作成文責長谷川

2022 年度(令和 4 年)企業活動研究グループの活動報告(案)

2023 年 4 月 20 日

中部本部愛知県支部社会貢献委員会企業活動研究会

1. 2022 年度の WG の主な活動状況

2022 年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で、対面での会議開催が中止に追い込まれる中、当初計画に乗っ取り、非接触型の Zoom によるリモート会議を行った。Zoom によるリモート会議には、戸惑いもあったが、徐々にその環境に慣れ、何とか第 266 回(4 月)から第 277 回(3 月)まで毎月約 1 回のペースでリモート会議を開催できた。ただ、技術士会会員と一般向けのワークショップについては、リモートと現地のハイブリッドでの開催を行うと共にその主要な情報を技術士中部に論文の形で発表した。

2. 2022 年度の当初計画

1) テレビ会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

3) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

エネルギー・環境・変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

4) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連情報の交換と討議を行う。

5) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

コロナ下での社会・技術環境変化を踏まえ、パンデミック以後の世界と技術者をテーマに、世界の分断とサプライチェーン等産業構造への影響、ワークスタイル変化の技術者の影響と将来見通し等を議論できるべく、対面・リモート両面からのワークショップの準備を進める。

3. 活動実績

1) テレビ会議システムの継続と発展

Zoom によるリモート会議は、定着したが、新型コロナのデルタ株、オミクロン株が次々と発生し、対面での会議開催は出来なかった。

2) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

地球温暖化防止と共に、再生エネルギーを主力とする欧州のエネルギー危機や原発技術の動向等がパンデミック下の米中対立等安全保障とも絡んで取り上げられると共に、DX や EV 車等エネルギー自動車を中心とする製造業を取り巻く技術動向について議論した。

3) AI、5G、IoT、自動運転等情報技術の動向報告と討議

AI、5G、IoT、メタバース、量子コンピュータ等先端の科学技術めぐる技術関連動向や政府の技術支援政策の動向等の情報交換と討議を行った。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

「ポストコロナの社会と技術者—世界が直面する三つの危機と技術の二つの課題」をテーマとしたワークショップを企画し、幹事会の会計やハイブリッド会議のための技術支援を受け実施した。また技術士中部に一部関連情報を論文の形で発表した。

4. 予算と実績

当初会議の使用料として Web 会議使用料およびワークショップ関連費用は、支部管理下で行った。

(代表松田則雄 会計 長谷川欽一) 以上

2023 年度 企業活動研究会活動計画（案）

2023 年 4 月 20 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 企業活動研究会

1. 今期の基本方針

旧愛知県技術士会の WG として 1998 年に設立され企業活動研究会(旧 ISO14000WG)は、2022 年度もリモートでの会議で活動を続け、今まで合計 276 回（愛知県支部の社会貢献委員会の WG としては、81 回)の研究会を開催してきた。この間、社会全体としてのデジタル化が急速に進み、こうしたデジタル化への対応をが、定着しつつあるが、その変化が、急速であるために、新たな課題も浮上しつつある。今期は、前年度に引き続きこうしたデジタル化の企業の直面する課題を積極的に取り上げるとともに会の活動自身の在り方もデジタル時代にふさわしくその情報発信方法も含めて自己変革してゆく。

2. 今年度の主な活動内容

1) リモート会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

2) エネルギー・環境問題、安全保障等の動向報告と討議

エネルギー・環境・安全保障問題の変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

3) チャット GTP 等 AI、5G、IoT、メタバース、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連動向の情報の交換と討議を行う。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催と情報発信

本年度は、全国大会の開催を控えていることもあり、独自のワークショップの開催は見送ることにするが、チャット GTP 等生成 AI 技術の急速な発展にみられるような、AI 関連技術の急激な発展が、技術者の業務や情報発信スタイルを大きく変化させようとしている状況に鑑み、これらの技術を活用した、情報の整理と情報発信の方法を模索してゆく一年としたい。

5) その他環境対策技術及び関係先からの要請対応

自治体や各種団体などからの要望に対応した活動は適宜幹事会と協議して行なう。

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 15:15～17:00（花車ビル北館 B2 会議室）

時間帯を短縮した。Zoom の設定を 13:30～17:00 まで、食問題研究会との一括設定とした

2) 定例会議スケジュール 当面 zoom によるリモート会議

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例	82回 277回	83回 278回	84回 279回	85 280回	休み	86回 281	87回 282回	88回 283	89回 284回	90回 285回	91回 286回	92回 287回
開催日 (曜日)	8日 (土)	13日 (土)	3日 (土)	8日 (土)	休み	9日 (土)	14日 (土)	11日 (土)	9日 (土)	13日 (土)	10日 (土)	9日 (土)
司会 議事録	長谷川/長谷川	犬丸 長谷川	前田 長谷川	長谷川/長谷川	休み	松田 花井	花井 松田	長谷川/長谷川	犬丸 長谷川	松田 長谷川	花井 長谷川	前田 長谷川

新美（代表）・長谷川（会計）

4. 概略予算. (単位：円) 会計担当（長谷川・本堀委員）

WS 支部からの補助	50,000	月例会：会議室使用料、10ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

作成文責長谷川

2023年 YGF（ワイガヤフォーラム）活動計画

2023年4月 森永泰彦

1. 活動の目的

- ◇ メンバー会員の輪番制あるいはその都度気づいた問題に関しで発表、ワイワイガヤガヤ（YG）と討議・意見交換し知見とメンバー間の相互理解を深める。
- ◇ これらの討議の過程で得られた成果を会員技術士のみならず広く一般社会にも発信し、社会の厚生に寄与することを目指す。

2. 2022年度活動履歴

(1) 月度例会

コロナ禍により前年度に引き続き Zoom によるリモートで開催した。

日付	スピーカー	テーマ
2022/4/27	森永泰彦	システム最適化の試行 (遺伝的アルゴリズムを用いた Excel による変種変量生産工場の機械配置最適化検討)
2022/5/25	前田 武光	伊勢湾台風の思い出
2022/6/22	高木 俊一	国際紛争と地球環境破壊
2022/7/22	山口 正隆	台地を拓いた明治用水,世紀の大事業愛知用水
2022/8/31	花井 健夫	カーボンニュートラルと日本の電源構成
2022/9/21	井上 祥一郎	技術者としての幸福感 ～十壤微生物に導かれて～
2022/10/19	長谷川 欽一	欧州・C 国のエネルギー危機と我が国の現状
2022/11/23	水野公元	電子公証制度の紹介(知的財産権への応用)
2022/12/28	野々部 顕治	動画ができるまで
2023/1/25	大磯勇己	IT 関連の最近のニュースまとめ
2023/2/22	久慈 聡	航空機への落雷の現象及び設計評価について
2023/2/22	松田則雄	人工知能の可能性について
2023/3/29	稲垣 拓之	自作スマホアプリで DX に挑戦

(2) 講演会

日 時：2022年9月18日(土) 13:30～17:00

場 所：Web による開催

参加者：56名

テーマ：日本の食とエネルギーに関し、現状と将来の安全保障について考える

① 講演1 「食料安全保障の危機の本質と打開策

講師：鈴木宣弘氏 博士（農学・東京大学）東京大学 大学院 教授

② 講演2 「ポスト石油時代の日本のエネルギー・産業戦略」

講師：大場 紀章（京都大学理学研究科修士課程修了）

合同会社ポスト石油戦略研究所／代表

主な成果	テーマ選定、テーマに即した講師の探索、講師への依頼、講演会当日の運営まで関係者は一度もリアルで面談することもなく、すべてリモートで行えたこと、アンケート結果からも参加者に十分満足頂いた点が成果と考える。
問題点・改善点	今回は著名な講師に講演をお願いすることで統括本部 HP 行事案内（一般向け）に掲載していただいたか、中部本部以外からの参加は神奈川と大阪の2名のみ、一般も個人的なつながりでの参加が3名と伸びなかった。原因は統括本部 HP 掲載が講演会の1ヶ月と時間が短かったこと、9月17日は本部HPで7件の講演会が開催されることになっていたことなどが考えられる。参加者を多く募るには出来るだけ前に計画をすることが望ましい。
今後の課題	アンケート結果をみると参加者から講演会に対する期待が大きいと感じた。社会貢献委員会として、あるいは愛知県支部としてどのような講演会をどこが主催して行うか、アンケートをそれぞれの主催者が思い思いに作成していると思うか、講演会を体系的に企画するには、ある程度の標準化（定期的に見直すとしても）が必要と考える。

3. 今年度の活動

(1) 月度例会

当面はコロナ禍の影響は続きと考えられ、且つ遠隔地の参加者もいるので、Zoomでの開催を念頭において進める。なお、話題提供は以下を予定している。

日付	スピーカー	テーマ
2023/4/	森永泰彦	循環経済について
2023/5/	前田 武光	
2023/6/	高木 俊一	
2023/7/	山口 正隆	
2023/8/	花井 健夫	
2023/9/	井上 祥一郎	
2023/10/	長谷川 欽一	
2023/11/	水野公元	
2023/12/	野々部顕治	
2024/1/	大磯勇己	
2024/2/	久慈 聡	
2024/3/	松田則雄	

(2) 講演会

今年度は全国大会が愛知県支部担当となり、支部役員への負担の都合から開催を見合わせる。

2022 年度理科支援活動報告と 2023 年度計画

2023 年 4 月 11 日

理科支援担当 野々部 顕治

1. 2022 年度の理科支援事業の取り組み

1-1 特別講師実施状況

2022年度は小中学校で29件特別講師を実施した。愛知県は比較的多く、次いで静岡県が多かった。また2019年度からナスもルラボ講座にも取り組んでいる。詳細は表1参照のこと。

他のイベントのうち、3月26日に行われた知立南小桜まつりについては大変盛況で、親子あわせて75名にご来場いただいた。

表1 2022年度に小中学校などで実施した理科特別授業

小中学校での特別授業

名古屋市

No.	日付	学校	題目	学年、組	備考
1	7月7日	瑞穂小学校	自由研究のテーマを見つけよう	3-1,2,3	
2	11月9日	八事東小学校	パソコンで正多角形をいろいろかいてみよう	5年、6年	
3	7月14日	戸田小学校	身の回りの科学 温度と物の変化	5-1,2,3	
4	11月15日	長根台小学校	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1,2	

愛知県

No.	日付	学校	題目	学年、組	備考
1	7月1日	常滑市立大野小	パソコンで正多角形をいろいろかいてみよう	4-1,2	
2	7月8日	豊川市立一宮南部小	二酸化炭素、ドライアイスを使った実験で化学を楽しもう	1~6年	
3	9月7日	愛西市立永和小学校	太陽と地球と月の関係	6-	
4	7月1日	春日井市立白山小	水中に住む小さな生き物を観察しよう	5-1,2	
5	10月4日	東浦町立石浜西小	私たちの住んでいる町の地形と防災	6-1,2,3	
6	9月9日	日進市立香久山小	太陽と地球と月の関係	6-1,2,3	
7	11月2日	岡崎市立六ツ美中部小	水溶液の性質を利用して水をきれいにならそう	6-1,2	
8	10月25日	高浜市立翼小学校	地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり	6-1,2,3	
9	12月1日	東浦町立生路小	私たちの住んでる町の地形と地層	6-1,2	見学者あり
10	7月6日	東浦町立森岡小	花火の色がなぜ赤かったり黄色だったりするのだから	3-1,2	
11	2月2日	南知多町立みさき小	水溶液の性質を利用して水をきれいにならそう	6-1	
12	10月5日	南知多町立みさき小	プログラミングで豆電球を点灯する実験	6-1	
13	2月8日	南知多町立みさき小	パソコンで正多角形をかいてみよう	5-1	
14	12月14日	南知多町立みさき小	電磁石の性質についての実験	5-1	
15	2月24日	瀬戸市立萩山小	モーターを作ってみよう	5-1	
16	1月17日	岡崎市立六ツ美北部小	地下の地層を見てみよう	6-1,2,3	
17	12月19日	津島西小学校	天災に対する防災・減災・避難対策	5-1,2,3	

岐阜県

No.	日付	学校	題目	学年、組	備考
1	6月4日	岐阜市立西郷小学校	私たちの住んでいる町の地形と防災	6-1,2	

静岡県

No.	日付	学校	題目	学年、組	備考
1	6月17日	浜松市立鴨江小学校	モーターを作ってみよう		浜松RAIN房
2	10月20日	藤枝市立大洲小学校	身の周りのもので、電池を作ろう		
3	7月14日	袋井市立今井小学校	土の種類による液状化現象のちがい	6-1,2	
4	11月29日	函南町立丹那小学校	プログラミング的思考を学ぼう	6-1	
5	9月8日	磐田市立東部小	太陽と地球と月の関係(月の満ち欠け、月食)	6-1,2,3,4	
6	10月4日	三島市立中郷小	太陽と地球と月の関係(月の満ち欠け、月食)		
7			土地のつくりと変化		

他の教育イベントなど

No.	日付	場所・イベント名	題目・講座	対象	備考
1	4月23日	知立市	私たちの住んでる町の地形と地層	中級	
	6月26日	ナスもルラボ講座	暮らしに役立つ生物のスゴ技を発見しよう	初級	専門講座
	10月23日		風力発電機を作ってみよう	中級	
	12月11日		身の回りのもので電池を作ろう	中級	
	2月12日		油を使ってエコキャンドルを作ってみよう	初級	
	5月14日		micro:bitで電子サイコロを作ろう！	中級	
	4月23日		私たちの住んでる町の地形と地層	中級	
2	7月29日	夏休み環境学習講座	暮らしに役立つ生物のスゴ技を学ぼう！	小学生と保護者	愛知県
	8月15日		風力発電機をつくってみよう！		
3	3月26日	知立南小桜まつり	地震を想定した液状化の実験	小学生と保護者	ナスもル
			micro:bit で遊ぼう！		
			備長炭で電池をつくろう		
			風力発電機をつくってみよう		
4	7月30日	静岡県地震防災センターこども防災教室	どうしたら割らずに生卵とゆで卵を見分けられるか？	小中学生	静岡県
			こども防災教室		

1-2 理科実験授業研究会

下記の3回実施した。新型コロナの影響はあったが、いずれもWebだけではなく会議室とのハイブリッドで実施した。

表2 2022年度に小中学校などで実施した理科特別授業

日付	場所	内容	題目	講師(敬称略)
4月24日	Zoom + 中部本部会議室	実演	どうしたら割らずに生卵とゆで卵を見分けられるか?	大矢智一
10月23日	Zoom + 中部本部会議室	実演	小学生向け科学実験教室「かるがものカルガーマ」を助け出せ	大矢智一、小林理恵
1月29日	Zoom + 中部本部会議室	実演	振動反応をやってみよう	西本テツオ

2 2023年度の主な計画

- ① 各教育委員会などに対し、これまでと同様に積極的な提案活動を行う。統括本部、中部本部及び山崎財団などの支援制度を大いに有効に活用し、実施件数を増やす。
- ② 11月に行われる技術士全国大会(愛知・中部)の展示コーナーにて、理科支援の取り組みの様子を展示し、全国の技術士の皆様に活動ぶりを紹介し、ご意見を伺うことによって交流を深める。
- ③ 理科実験授業研究会を継続実施し研鑽をする。2020年度の後半になってZoomを用いたオンラインの配信方法をほぼ確立し、会場でのプレゼンと併用したが、今年度も継続する。
- ④ その他理科支援活動の実施
「ナスもルラボ講座」「夏休み環境学習講座」「知立南小桜まつり」などに出展する。

令和 4 年度愛知県支部社会貢献委員会
活用促進状況報告

1 実施状況

活用促進については、表 1 及び表 2 のとおりであった。

表 1 技術士業務の紹介の実績

発注者	件名	問合せ日	完了日
株式会社 I	社内講座(対面)「伝熱工学の基礎と省エネ対策」	2022.03.04	2022.06.08
株式会社 I	社内オンライン講座「熱漏れ対策の省エネ効果算出方法」	2022.03.04	2022.07.08

表 2 指導技術士紹介の実績

依頼者	依頼内容	問合せ日	完了日
(一社)P の技術士 一次試験合格者 (応用理学部門)	自社内に同部門の技術士がいないため、 愛知県支部へ打診あり。支部から指導技 術士を 1 名紹介した。	2022.11.11	2023.01.10